

○ふりかえり意見一覧

1. 「学校や地域の課題について考えよう」をテーマにした委員意見

区分	内容
学校	◎先生は忙しい。子どもに向き合う時間の減少。先を見越した研鑽の余裕はない。
	・多様性が求められる時代で、生徒一人一人に合わせた対応が求められる。
	・正解に導く学校の学びに対し、正解がない課題の創出・行動・改善が求められる社会とのズレがある。
	・習熟度が違う生徒が同じ授業を受けること。
	・地域との関係が年々希薄化している。
	・保護者や地域からの苦情の対応が多く、気を遣う。
	・学校受け入れがしにくい。
	・先生の意識の変革が必要である(子どもを真ん中にとらえて地域とつながる)。
	・地域での子どもに関わる活動を知っておく必要がある。
	・課題があれば一緒に解決していく姿勢をもつこと。
	・学校ごとの人数の差が激しい。
	・子どものよいところを保護者へ伝えられていない。
	・学校行事が行われる曜日や時間帯をよくよく考えるべきである。
地域	◎地域の方は忙しすぎる。
	・地域活動の担い手不足、高齢化している。
	・大人同士のつながりが希薄である。
	・学校との関係が年々希薄化、学校へ行きにくい。
	・学校のことを知らない。情報が少ない。
	・学校での事件やコロナ禍により出入りが難しくなり、学校は遠い存在である。
	・コロナにより、ふれあう機会がなくなった。
	・地域の伝統行事や子ども向けイベントが減少している。参加も減っている。
	・外部の力(金をかけて)を利用して共有できる行事を企画・実施
	・学校全体というよりも、関係のある子どもに関心を持ちがちである。
	・地域の方から学校支援の提案はない。
	・地域で起こっていることの解決を学校へ求める方がいる。
保護者	◎保護者は忙しすぎる。共働きが多く、子どもを見られない、余裕がない。

	・ P T A活動も義務的、積極性は見られない、先入観がある。
	・ 親同士の交流がない。
	・ 先生への良かった点のフィードバックができていない。
	・ 学校ルールを軽視。行事の際に民間施設駐車場に駐める送迎問題がある。
子ども	・ 子どもは忙しい。地域で遊ばない。
	・ 子ども同士で過ごす居場所がない。
	・ 親以外に関わる大人がいない子どもが増えている。
	・ 2極化している（習い事ある子とない子）。
	・ 学校における遅刻、休みのハードルが低くなっている。
	・ 子どもは減ってきている。
その他	・ 学校と地域が協力して子どもを育てていく思いを持つことが大切である。
	・ P T Aおよび関連団体の在り方やメンバー選出方法についてよくよく考えるべきである。
	・ 自転車通学において、確認もなく飛び出してくる自転車との接触事故。八幡木津線における自転車走行の危険性。

2. 「子どもと地域の関わりについて考えよう」をテーマにした委員意見

区分	内容
子ども	・活動を通して地域が好きになる。
	・地域をあまり知らない。
	・多様な人の中で様々な経験を積む事が大切である。
	・子どもの成長にとって地域との関わりはとても大切である。
	・地域とつながれるイベントがあっても、子どもは地域を意識していない。
	・習い事が多く、地域の行事に参加しなくなった。
	・積極的に地域に関わろうとしない。
	・地域についての関心は持っており、関わる意欲もあると思う。
	・子どもは、大人の関係性の影響を受けやすい。
	・地域の行事やイベントを復活
地域	・地域の安全性が変化している。子どもの安全をどう担保するか。
	・地域内での子どもの役割を考える。
	◎地域の交流が希薄、コミュニケーションが少ない。
	◎子ども同士で遊ぶ場所、集まる場所がない。
	・地域の行事等がなくなっている。
	・昔は子ども会で地域清掃することもあった。
	・松井ヶ丘では文化祭に地域の子どもがさんかしており、運動会で踊りも披露してもらっている。地域の方はとても喜んでいる。地域文庫もある。
	・学校の校庭を先生の負担なしに開放。親世代のコミュニティ構築
	◎つながり作り、顔見知りが重要である。
	・地域の活性化のためにも集いやすい環境整備が大事である。
	・学校と家庭以外の居場所（サードプレイス）が必要である。
	・地域で子どもを見るという感覚がなくなっている。他人の子どもに関わらない。
	・子どもは減少しており、地域の行事ができない。
	・子どもに声かけすると不審者扱いになる。
	・デジタル中心の遊びが多い。
家庭	・各家庭における許容度の違い。
	・人によって許容度が違い、親同士がもめる。子ども同士の関係にまで影響する。
学校	・地域と関わる教育を行う必要がある。
	・地域の思い、保護者の思いを聞く場があるとよい。
	・地域と家庭をつなぐ役割があったが、学校が担うのはもう難しい。

※3名以上の委員が挙げたキーワードについては、◎を付けている。

○ふりかえり意見からみた課題のまとめ

1. 子ども、学校、保護者、地域の関係性

子どもの成長には、多様な人の中で様々な経験を積むことが大切であり、正解のない課題への学びが求められるなか、学校だけでこれからの新しい学びを進めていくことは難しく、地域の協力が必要である。また、子どもに合わせた多様な対応も求められている。子どもを取り巻く環境として、学校、保護者、地域の関係性は重要度を増している。

しかし、教職員や保護者は大変忙しくしており、これまで学校に関わる地域の人でも高齢化や担い手の減少があり、それぞれの関係性は希薄化している。学校は子どもの良さを保護者に、保護者は学校のよさを学校へ十分には伝えられていないことが見られる。そして、こどもは、保護者以外の大人との関わりが少ない。安全面からは、顔見知りではない大人にあいさつできない状況になっている。子どもは大人の人間関係の影響を受けるものであり、学校、保護者、地域のつながりが低下していることは大きな問題である。

- ・ 正解のない課題への問いを立て、調べて、他者との対話を通じて深掘りし、行動するといった新しい学びを推進することは、学校だけで進めるのは難しい。
- ・ 学校、保護者、地域の人間関係が希薄化することで、それぞれの事情や情報は共有されず、お互いの協力関係は年々減少している。
- ・ 教員は忙しくしており、子どもに向き合う時間が減少していると思われる。
- ・ 安全面から、子どもたちは顔見知りではない大人にあいさつしないことがあるなど、大人も子どもも疎遠になりがちで、地域全体の安全性に影響する。

2. 地域資源

京田辺市には、すでに様々な地域活動が行われており、参加した者は喜んでいる。しかし、担い手や関係者は減っており、地域活動も減ってきている。そして、学校は地域にどのようなものがあるかを十分には知らず、地域も学校のことを知らないことがあると思われる。

- ・ 特色ある活動はあるが、年々減少している。
- ・ 地域資源は、十分には把握されず、活用に至っていないものがある。

3. 地域の状況

地域の担い手は、高齢化や多忙なことから減少している。また、コロナ禍以降は伝統行事やイベントが減少したままで、コミュニケーションが減り、希薄化してきている。子どもの地域での役割も減っているように思う。昔は、学校はまちの中心にあり、地域をつなぐ場でもあったが、今は入りずらく、遠い存在となっている。また、学校や家庭以外にも子どもの居場所があることが重要であるが、子ども同士で集まる場所、遊ぶ場所が十分にはない。

- ・ 地域の関係性は希薄化し、行事等で集まる機会も少なくなっている。
- ・ 学校が地域の中心ではなく、入りづらい場所となっている。
- ・ 子どもの居場所は重要であり、より一層確保が求められる。